

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370072

研究課題名(和文)伊勢神宮の御師廃止と参宮者の関係性再構築に関する調査研究

研究課題名(英文)An Investigative Study on the Reconstitution of a Support Network for Ise Jingu Pilgrims after the Abolishment of the Pilgrimage Facilitator System in 1871

研究代表者

櫻井 治男 (SAKURAI, Haruo)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：00087735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本近代の宗教史における転換期の明治初期に、伊勢神宮改革の一環として行われた「御師」制度の廃止後における旧師職の動向を明らかにすることを通し伊勢神宮と参宮者との近代的関係の再構築を具体的に検証する目的を有する。そのため、散逸が危惧された旧師職の中川采女家・岩井田両家の資料群の保全と活用を図り、資料目録作成とデジタル写真によるアーカイブ化につとめた。また、幕末から昭和初年までの伊勢参宮者名簿群である中川采女家資料の分析により、参宮形態の変化が参宮者とホスト側の相互に見いだせることを明らかにした。近代から現代における伊勢参宮研究の新たな諸課題を導きだしたことも研究の成果である。

研究成果の概要(英文)：This research is aimed at shedding light on the reconstitution of a support network for pilgrims journeying to Ise Jingu after the Meiji government's abolishment of the pilgrimage facilitator (onshi or oshi) system in 1871. It was an important policy decision in the reformation of Ise Jingu, and an investigation of it helps us to understand modern Japanese popular religious history. Our efforts have been made to try and preserve and utilize the many documents which have been saved by both the Nakagawa and Iwaida families. We would like to point out the following two challenges to be addressed in further studies. (1)There is the urgent task of dealing with the dispersal of document collections. (2)An analysis of Nakagawa's documents shows us the fact that there was a changing style for the performance of pilgrimages, and this occurred in conjunction with Japanese social changes. This research has also raised several issues we need to reconsider about modern Ise Jingu faith within it.

研究分野：宗教社会学 近代神道史

キーワード：近代伊勢神宮史 伊勢信仰 伊勢参宮 御師職 中川采女家 岩井田家資料 宗教と観光

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、平成 23 年度～25 年度に科学研究費の助成を受け、「近代の伊勢神宮改革と御師制度廃止に伴う伊勢信仰の相克に関する基礎的研究」(研究代表者：櫻井治男、課題番号 23520088)がある。

ここでは、旧御師(師職)で伊勢神宮の重要な祭祀職であった「大物忌父(おおものいみのち)」家(岩井田家)伝来資料の、1 万点弱に及ぶ資料の目録化と、同家が檀那場としていた北関東地域(埼玉県北東部～茨城県南東部)の集落における伊勢信仰の現在の状況の解明を試みた。

その結果、岩井田家との関係が昭和戦前期まで続き、また両者の関係が失われても、近年まで旧檀那地域では伊勢講が継続されて来たことなど実態を明らかにしてきた。

これらの成果は、「御師制度の廃止と伊勢信仰に関する研究の意義」(平成 24 年度神道宗教学会学術大会、於・國學院大学)としてパネル発表を行い、また、平成 26 年 2 月には、「岩井田家未公開資料展」(於：皇學館大学)を開催し、資料公開と活用に向けた提案を実施する計画を立てていた。

伊勢神宮の御師研究については、これまで、明治 4 年の御師制度廃止以前の様相を解明することに主眼がおかれてきたが、近代以降の御師の変容に関する研究は、資料的な制約があり十分行われてこなかった。しかしながら、岩井田家資料を発掘・分析することを通して、単独例ではあるが、廃止後の御師の実像が徐々に明らかにされつつあることは、当該研究の新たな地平を拓くものと捉えることができる。

但し、岩井田家は、明治以降も伊勢神宮内部の神職としてその立場を継受しており、この点、直接的に伊勢神宮との関係を失った他家のその後がいかなるものかは、個別に資料を参照することが必要となる。

こうした問題意識の過程において、新た

に、伊勢神宮内宮前において著名な旅館業を営んでいた、旧師職(中川采女家)の宿泊簿冊類(慶応元年～昭和 4 年)12 点が、櫻井治男(皇學館大学教授)に一時寄託され、その資料と神宮文庫等に所蔵の資料とを活用することにより、比較研究が可能となった。当該寄託資料は緊急調査が必要となっている。

中川采女家の旧檀那場は北部九州を中心とし、有力な御師であったことは間違いなが、近代以降の同家の役割等については、単に旅館業を営んでいた(現在は無い)という程度のことでの理解に留まっている。しかしながら、新出の資料が示すところでは、多様な地域からの参宮客を受け入れるとともに、中川采女家以外の旧師職を頼りとする地域の参宮者を受け入れるネットワークの存在がうかがわれる。こうしたネットワークがどのような旧師職間の紐帯関係から生み出されるのか、またその場合における「旧師職」としての意識のあり方を分析することにより、近代的な伊勢神宮の立場と旧来の参宮習俗にある者との媒介項としての役割を照射することが可能となる。

2. 研究の目的

本研究は、日本近代の宗教史における転換期の明治初期に、伊勢神宮改革の一環として行われた「御師」制度の廃止後における旧師職の動向を明らかにすることを通して、伊勢神宮と参宮者との近代的関係の再構築を具体的に検証するものである。廃業時に約 700 軒あった師職の状況について、その全体像は把握されていない。有力な師職は、自己の資源を活用し旅館業を営み、参宮者の受け入れを行うが、そこでは変革前に見られた宗教的役割は減じ、世俗的な稼業への転換が図られる。

しかしながら、伊勢参宮を行う地域社会にとっては、旧御師への関係意識が継受さ

れる側面があり、これらの実態研究は極めて少ない。本研究では、新発見の資料を活用し旧師職と地域社会との関係の再構築の様相を明確にするとともに、研究資料の共有化に寄与することを目的としている。

そこで、本研究では次の4点を明らかにすることに力点をおくこととした。

(1)新出資料の画像アーカイブ化と内容のデータ・ベース構築及び研究上の共有資料としての活用化の方途を明らかにする。

(2)資料の解読を通して、近代における伊勢参宮者の動向を明らかにする。

(3)中川采女家の役割と従前の研究で明らかになった他の旧師職（特に岩井田家を対象）との役割関係を分析し、近代における伊勢参宮の時代的変遷を明確にする。

(4)旧檀那地域との関係がいかなる実態的関わりとして継続され、それがどのように変化して行くかを明らかにすることにより、伊勢信仰の近現代的意味を考察する。

3. 研究の方法

研究を進めるにあたり、宗教学・近代史・地域文化研究の専門領域からのアプローチによる研究推進を図る計画を立て、資料の取り扱い及び実地調査等については、研究協力者の専門的な支援を受け研究完遂を目指す。計画と方法は次の4点である。

(1)新出資料の画像取り込みと活用度を高める加工処理を行い、全資料の解読を進め、元旅館資料の中心となる宿泊名簿のデータベース化を行う。

(2)参宮者の出身地と旧師職・中川采女家の配札・檀那地域との同定及び師職廃止後の他地域からの参宮者の出身地と旧師職との関係を明らかにする。

(3)旧師職・中川采女家に関する周辺資料の把握と旧檀那地域における関係資料の発掘と関連付けを行う。

(4)旧檀那地域における伊勢講、伊勢信仰

の近現代における実態把握を主眼とした研究を進め、資料内容の精緻な分析に基づき宗教学・近代史・地域文化研究から伊勢参宮・伊勢信仰の近現代的意味を解明する。

なかでも、中川采女家及び岩井田家資料の将来に向けての保全・活用の基盤を整えることは、研究期間中の喫緊の課題であり、前者については、全資料の画像アーカイブ化を完了するとともに、後者資料は全点の目録化の進行に応じつつ、できる限りデジタル写真による保存を行うこととした。

4. 研究成果

(1)新出資料である、中川采女家の資料については、全簿冊の画像取り込みを完了し、活用度を高める加工処理を行うとともに、資料解読を進め、元旅館資料の中心となる宿泊名簿のデータベース化を終えた。

宿泊者名簿は、時代が下るにつれ、錦切を用いるなど装飾を施した表紙となっており、芳名録的な様相を帯びている。

中川采女家は、伊勢神宮内宮の神宮家として明治4年の改革まで禰宜職を代々務めてきた。資料は、慶応元年(1865)4月から、昭和18年(1943)3月まで、78年間にわたる自家宿泊者の記録簿12冊である。

(2)参宮者の出身地と旧師職・中川采女家の配札・檀那地域との同定に関する分析からは、次の状況が明らかとなった。

江戸時代の記録によれば、中川采女家では、「中川采女神主」銘で御被大麻を九州北部の筑前、筑後、日田（現在の福岡・大分県）で配札をしていたが、新出の資料からも、前代の檀那地域である九州北部関係地域からの参宮者が中心となっており、その点で関係の継続性がうかがわれる。しかしながら、明治4年の神宮改革を転機として、それ以前は「祈祷姓名簿」として、伊勢参宮にともなう神楽奉納による祈祷を希望した者の住所・姓名・奉納額などが記録され

ていたものが、以降は中川采女家などを宿泊利用した参宮者の名簿（住所地番まで記載）が中心となっている。

それらの内容から、旧檀家の範囲、村内における複数参宮グループの実態（規模・参宮頻度・年齢構成等）が分析可能で、地域における民俗事例と照合することにより、近代の参宮実態と「参宮同行（どうぎょう）」グループ形成状況を知ることができた。

また、参宮形式が、近世における「代参」から、多人数による「旅行」へと移行される様相が見られ、こうしたことが、旧御師家と旧檀家との関係性に新たな再構築を必要とする要因が発生する背景にとりて捉えられることなどが明らかになってきている。

中川采女家資料の名簿を参考に、北部九州地域における伊勢信仰の現地調査を試みたところ、名簿では参宮組織の中でも明治中期以降は「同行」という名称でグループが把握されている場合があった。

「同行」は、北部九州の各地でみられる男性中心の組織であるが、既婚の青年男性が、同年もしくは或る程度の年代幅の同じ地域内の知人を以て組織する例が多い。地域の年中行事を直接担当する事例はあまりなく、毎年定期的に親睦を深め、冠婚葬祭などの付き合いを通じて終生関わりをもつ慣例が見られ、「同行」組織を結成すると最初に行うのが伊勢参宮と位置づけられている。但し、「同行」を結ぶことは現在では絶えており、伊勢参宮の観点だけではなく、修験で有名な「英彦山参り」が重要な参詣対象とする地区が多いことに見られるように、地域の宗教文化全体の文脈で捉えなおす必要のあることが明らかになった。

こうした点は、関東地方を旧檀那地域とする岩井田家の資料分析からも垣間見られ、そもそも近代における「伊勢信仰」とは何かという問題を改めて浮かび上がらせていることが重要な点として指摘できる。

(3)資料の保全と今後の活用に向けての成果としては次の4点を報告する。

中川采女家の資料については、研究グループで画像データ及び資料内容（名簿）を整理したデータベースを作成した。その一端については、ニュース・レターでの紹介や学会等で発表してきた。

当初、散逸を危惧した中川采女家資料については、本研究を契機として研究チームが寄贈を受けて保管することとなり、研究終了後に関係の図書館での受け入れの方向性が決定した。今後の公開に向けて更なる検討を重ねることとしている。

中川采女家の近代における状況をうかがう上で参考となる岩井田家資料については、研究期間中に全資料の4割と積算している17,480コマの写真撮影を進めることができ進展を見た。また、それら写真は岩井田家資料の仮目録番号との関連付け作業を行い、今後の当該研究の基盤を整えることができた。

岩井田家資料については、ご所蔵者の岩井田家より我々研究チームが、将来皇學館大学への帰属を前提に措置する承諾を得ることが出来、今後目録化が進むことにより、さらに資料の活用度を高める状況へと発展させることができた。

(4)なお、今後の研究課題として以下の4点をあげておきたい。

中川采女家資料の画像データ及びデータベースの公開について。当資料には、参宮者の住所・氏名・年齢等が記載されており、それら情報をどこまで公開するのかという問題と画像データについては、公開のための環境整備の課題が残されており、今後本研究に関わったチームにおいて検討を続けていきたい。

岩井田家資料については、特に目録化作業と写真撮影を如何に進めるか、長期にわたる基礎作業の課題が残されており、そ

の進展に注目して行きたい。

伊勢と参宮者の関係性にかかる再構築の研究については、近代における制度的な研究テーマだけではなく、本研究が目指した、地域の人々が旧来の伊勢参宮の慣例をどのように変化させて行ったのか、また一方で参宮者を受け入れる「伊勢」の側の問題という観点から文字資料とフィールドワークに基づき実態を捉えるべく研究展開をはかった。今回、その一端に切り込みを入れることは出来たが、両者の関係性において、近代の伊勢神宮が如何なる位置づけとして捉えられていたのかという「神宮観」をはじめとする諸問題は、多角的に検証すべき課題として残された。今後、膨大な資料内容の分析を進めることで本研究を更に進展させて行きたい。

明治4年(1872)に御師制度が廃止されて以来、旧師職家において所蔵されてきた資料のうち、近代以前の史料は比較的注目されてきたが、近代以降の家蔵資料への注目度は高くなかった。しかしながら、今後はそうした資料の重要度も高まると考えられるが、旧師職家において世代交代や後継者問題などで資料の廃棄や散逸が更に進行すると予想される。

こうした現在の状況において、資料保全の問題を抱えつつ他事例との比較研究を如何に進めて行くかの課題は残された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計18件)

濱千代早由美「史料紹介 岩井田家資料『留主中心得雑記』文久元年(一八六一)」、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』3号、2017年3月1日、243-275頁)査読有。
濱千代早由美「資料紹介 幕末期の伊勢・宇治における御師家の縁組にみるケガレ観 - 『廉引取之引留』をめぐって、

『女性と経験』41号、2016年10月1日、女性民俗研究会、126-136頁)査読有。

濱千代早由美「岩井田家資料を通してみる北関東」(『伊勢神宮の御師廃止と参宮者の関係性再構築に関する調査研究ニュース・レター』以下『ニュース・レター』と略、No.4、2016年9月30日、1-5頁)査読無。

谷口裕信「御師廃止後の旧御師と参宮者の関係性再構築 埼玉県を事例として」(『ニュース・レター』No.4、2016年9月30日、5-9頁)査読無。

櫻井治男「資料紹介:『神洲館』関係資料」(『ニュース・レター』No.4、2016年9月30日、9-12頁)査読無。

齋藤平「【調査報告】岡山県瀬戸内市牛窓町の伊勢信仰調査」(『ニュース・レター』No.4、2016年9月30日、12-13頁)査読無。

八幡崇経「【調査報告】佐賀県の伊勢信仰調査」(『ニュース・レター』No.4、2016年9月30日、13-21頁)査読無。

櫻井治男「福岡県糸島市の櫻井大神宮」(『ニュース・レター』No.4、2016年9月30日、21-24頁)査読無。

櫻井治男・八幡崇経「調査報告(4)山口大神宮・同遥拝所を訪ねて」(『ニュース・レター』No.3、2016年3月30日、1-7頁)査読無。

八幡崇経「神宮文庫所蔵 近代の伊勢神宮参宮記念名簿について」(『ニュース・レター』No.3、2016年3月30日、7-8頁)査読無。

八幡崇経「伊勢信仰の研修会について」(『佐賀県神社庁教化委員会活動報告書平成25年~27年』、2016年3月)12~14頁)査読無。

櫻井治男「御師制度廃止後の伊勢信仰研究の諸課題」(『神道宗教』240号、2015

年 10 月 25 日、142～145 頁) 査読有。
八幡崇経「九州北部における伊勢信仰の近代—内宮旧師職資料の分析から—」(『神道宗教』240 号、2015 年 10 月 25 日、145～148 頁) 査読有。

谷口裕信「藤村(潔)文書所収の近代伊勢講関係史料について」(『ニュース・レター』No.2、2015 年 9 月 30 日、1～3 頁) 査読無。

櫻井治男「調査報告(2)北九州における伊勢信仰の様相」(『ニュース・レター』No.2、2015 年 9 月 30 日、3～7 頁) 査読無。

八幡崇経「調査報告(3)北九州における伊勢信仰の様相」(『ニュース・レター』No.2、2015 年 9 月 30 日、7～11 頁) 査読無。

櫻井治男「調査報告(1)北九州における伊勢信仰の様相」(『ニュース・レター』No.1、2015 年 3 月 1 日、1～4 頁) 査読無。

八幡崇経「『中川采女家旧蔵伊勢神宮参宮記念名簿(仮題)』について」(『ニュース・レター』No.1、2015 年 3 月 1 日、4～8 頁) 査読無。

[学会発表](計 5 件)

櫻井治男「伊勢信仰と担い手の『再構築』という問題について」(第 70 回平成 28 年度神道宗教学会学術大会パネル、2016 年 12 月 4 日、國學院大學・東京都渋谷区)

八幡崇経「地域の『大神宮』と伊勢信仰—北部九州を事例に—」(第 70 回平成 28 年度神道宗教学会学術大会パネル、2016 年 12 月 4 日、國學院大學・東京都渋谷区)

八幡崇経「九州北部の伊勢参宮記念物に見る伊勢信仰の変化」(第 69 回平成 27 年度神道宗教学会学術大会、2015 年 12

月 5 日、國學院大學・東京都渋谷区)
櫻井治男「御師制度廃止後の伊勢信仰研究の諸課題」(第 68 回平成 26 年度神道宗教学会学術大会パネル、2014 年 12 月 7 日、國學院大學・東京都渋谷区)

八幡崇経「九州北部における伊勢信仰の近代—内宮旧師職資料の分析から—」(第 68 回平成 26 年度神道宗教学会学術大会パネル、2014 年 12 月 7 日、國學院大學・東京都渋谷区)

[その他] ホームページ等

皇學館大学研究開発推進センターのホームページ上に、『伊勢神宮の御師廃止と参宮者の関係性再構築に関する調査研究ニュース・レター』(1号～4号)を随時アップした。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/html/research/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

櫻井 治男 (SAKURAI, Haruo)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：00087735

(2)研究分担者

谷口裕信 (TANIGUCHI, Hironobu)

皇學館大学・文学部・准教授

研究者番号：10440835

齋藤 平 (SAITO, Taira)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：70247758

(3)研究協力者

八幡 崇経 (YAHATA, Takatsune)

呼子八幡神社・宮司

濱千代 早由美

(HAMACHIYO, Sayumi)

帝塚山大学・奈良大学・日本福祉大学・

非常勤講師